

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第320回

遠藤保仁

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年8月30日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

夢はグラウンドに 落ちている。

遠藤 保仁は、鹿児島県鹿児島市出身のプロサッカー選手、YouTuber。Jリーグ・ジュビロ磐田所属。ポジションはミッドフィールダー。元日本代表。実兄は元サッカー選手の遠藤彰弘。日本代表国際Aマッチ出場数最多記録保持者。2009年アジア年間最優秀選手。2014年JリーグMVP。

Column

まるでドラマや漫画のセリフのようなカッコいい名言です。そして、『大好きなサッカーを夢中で頑張ることで私は夢を掴むことができました！』という自信溢れるパワーや『夢はきっと叶う！』という力強いメッセージに感じます。

遠藤選手に限った話でもアスリートに限った話でもなく、夢や目標を達成するためには、やはり“努力”が最も重要なのだと思います。しかし、努力をすれば必ず達成できるわけではありません。達成できなかった時に『諦めずに努力すればきっとまたチャンスはやってくる！』『達成できなかったのは努力が足りなかったからだ！』など、厳しくも温かい励ましの言葉をかけられることがあります。自分の中では精一杯努力をしてきたわけで、それでも達成できなかったという絶望感は本当に辛いものです。時には達成どころか挑戦さえできずに終わってしまった場合は、自力では自分を支えられないほど落ち込んでしまうでしょう。そんな時は“自分のために言ってくれている”と理解しながらも、すぐには受け入れることが困難な場合も多々あります。乗り越えた後は気分が楽になって“無駄に時間を浪費してしまった…”と感じることもありますが、ショックやストレスに対する耐性は人それぞれです。私自身は耐性が非常に低く、落ち込んでしまうこともあるのですが、立ち直ることや立ち直ろうとするきっかけになるのは先に挙げたような言葉や接し方であり、その言葉や立ち振舞いから『人（仲間）の気持ち』が伝わり、一歩踏み出すパワーになるということです。

みなさんがチャレンジしている舞台である正智深谷高校にも夢は落ちているはず。落ちている夢を見つけ、仲間たちの足を見つけられるという意味では、時には下を向いてしまうことも無駄な時間ではないということです。常に前を向いていなきゃと思うとプレッシャーも非常に大きくなります。『下を向いてもいいけど少しでもいいから目を開けて耳を澄ましておこう！』と、自分の弱い部分を少しだけでも許しながら進むことは目標達成や目標探しへのひとつのヒントになるのかもしれないね！